

道徳的偽善に関する研究：Lammers（2012）の追試

○阿部祐也¹・清末有紀¹・幸 千尋¹・小溝美湖¹・田島幸慈¹・中村真優¹・森永康子²

(¹ 広島大学教育学部・² 広島大学大学院教育学研究科)

他者の非道徳的な行動には厳しく、自身の同じ行動には寛容な評価をすることを道徳的偽善と呼び、抽象的なマインドセット(以下, MS)や勢力感が高い場合に生じることが報告されている(Lammers, 2012; Lammers ら, 2010)。本研究は, Lammers (2012) の追試を行い, 抽象的 MS と具体的 MS をプライミングすることで道徳的偽善が生じるのかを検討する。また, 道徳的偽善に勢力感が影響するという結果(Lammers ら, 2010)をもとに, 調整要因として個人の勢力感についても検討した。

研究 1

方法 参加者 大学生 93 名 (女性 28 名), 平均年齢は 18.6 歳, $SD = 0.86$ 。

実験条件 MS(2:具体 vs.抽象)×道徳判断対象(2:自分 vs.他者)。すべて参加者間要因。

質問紙 MS 操作は現在と将来展望に関する質問項目(白井, 1994)と自由記述により行なった。道徳判断課題は, 自分(vs.他者)が試験に遅刻しそうになり放置自転車を使ったというシナリオを提示し, 「やむを得ないと思う」等の 6 項目に当てはまる程度を尋ねた。フィラーを挟み, 「私は他者に対して大きな影響力を持っている」等の 4 項目(Anderson ら, 2012)で勢力感を尋ねた。6 件法。

結果と考察 道徳判断と勢力感の平均値を算出し, 道徳判断得点($\alpha = .895$)と勢力感得点($\alpha = .739$)とした。道徳判断得点を目的変数とし, MS, 対象, 勢力感及びそれらの交互作用を説明変数とする重回帰分析を行った(Table 1)。その結果, MS×対象の交互作用が有意でなく, 道徳的偽善は生じなかった。また, 勢力感に有意な主効果がみられ, 勢力感が強いほど道徳判断が自他共に厳しくなった。Lammers (2012) の結果は再現されなかったが, これは, 公共の場で自転車を盗むとシナリオが他者評価懸念に影響したせいではないかと考えられる。そこで, 研究 2 では他者評価懸念の高低による道徳判断への影響を検討した。他者の存在の有無をシナリオで操作し, 加えて個人特性として他者評価懸念を測定した。なお, 研究 2 の道徳判断の対象は自分だけとした。

研究 2

方法 参加者 大学生 72 名 (女性 30 名), 平均年齢は 19.8 歳, $SD = 1.22$ 。

実験条件 第 3 者の存在(有 vs.無)の 2 条件。

質問紙 研究 1 のシナリオに無人の状況を示す文章を加え第 3 者無条件と文章を追加しない第 3 者有条件を作成し, 道徳判断を求めた。その後, フィラー, 勢力感, フィラー, 他者評価懸念(石川ら, 1992; 5 項目)の順で尋ねた。

結果と考察 研究 1 と同様に道徳判断($\alpha = .911$), 勢力感($\alpha = .792$), 他者評価懸念($\alpha = .781$)の得点を算出した。道徳判断得点を目的変数とし, 第 3 者の存在の有無, 勢力感, 他者評価懸念及びそれらの交互作用を説明変数とした重回帰分析を行なったが有意な結果は得られず($ps > .10$), 第 3 者の評価懸念は道徳判断に影響しないことが示された。また, 勢力感について研究 1 の結果は再現されなかったが, 研究 1 と 2 では勢力感得点に有意差がない($p = .479$)ことから MS 操作が必要なことが推測できる。

総合考察

本研究は Lammers(2012)の追試を行なったが, 結果を再現しなかった。その原因として, 本研究では道徳判断課題に自転車の窃盗という犯罪行為を用いたことが影響を与えた可能性が考えられる。今後は犯罪ではない課題を用いて道徳的偽善を検討する必要がある。

Table 1

道徳判断得点を目的変数とした重回帰分析結果	
変数名	道徳判断得点
マインドセット (1:具体 2:抽象)	.205 +
対象 (1:自分 2:他者)	-.042
勢力感	-.265 *
マインドセット*対象	-.039
マインドセット*勢力感	.029
対象*勢力感	-.001
マインドセット*対象*勢力感	-.010
R^2	.103

注1) 道徳判断得点が高いほど道徳判断が甘い。

注2) 勢力感得点が高いほど勢力感が強い。

* $p < .05$, + $p < .10$